

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	三重野 将敏
論文担当者	主査 新村 健
	副査 篠原 尚
	副査 若林一郎
学位論文名	Evaluation of QOL in Patients with Dyspeptic Symptoms Who Meet or Do Not Meet Rome IV Criteria (機能性ディスぺプシア患者とディスぺプシア症状を有するが Rome IV 基準を満たさない患者での QOL の評価)
論文審査の結果の要旨	
<p>機能性ディスぺプシア (functional dyspepsia: FD) とは、症状の原因となる器質的、全身性疾患がないにも関わらず、心窩部痛や心窩部不快感といった消化器症状を呈する疾患である。FD の診断には Rome 基準が用いられ、症状に加え、その頻度と期間から診断される。FD 患者では健康関連 QOL が障害されていることが知られているが、診断基準を満たさないディスぺプシア症状患者における QOL 障害の程度は明らかではない。そこで本研究では Rome IV 診断基準を満たす患者 (FD) と満たさない患者 (non-FD)、症状のない健常者とで QOL を比較し、QOL に影響を与える因子を明らかにすることを目的とした。</p> <p>本研究は当院および 8 つの関連施設で実施した多施設共同前向き観察研究である。2020 年 4 月から 2021 年 4 月までにディスぺプシア症状を訴え外来を受診し器質的疾患が除外された 235 名 (FD:126 名、non-FD:87 名) と健常者 111 名を対象とした。non-FD は、期間のみ診断基準を満たさない群 (Group A:17 名)、頻度のみを満たさない群 (Group B:53 名)、期間と頻度の両方を満たさない群 (Group C:17 名) に細分化した。全例で GSRS、HADS、SF-8 を実施し、各群間で臨床的特徴とそれらのスコアを比較検討した</p> <p>GSRS total score、HADS total score とともに FD と non-FD では健常人と比べ有意に高く、FD は non-FD より高かった。GSRS total score は FD で Group B と Group C と比して高かったが、Group A とは統計学的に差を認めなかった。</p> <p>non-FD においても健康関連 QOL は健常人より障害されていた。non-FD 全体では、QOL 障害の程度は FD より軽度だったが、期間のみ診断基準を満たさない non-FD の QOL 障害の程度は FD と同等であった。よってディスぺプシア症状患者における QOL 障害には、症状発現頻度が大きな影響を与えている可能性が示唆された。本研究はディスぺプシア症状を有する患者の診断・治療方針策定に影響を与えうる重要な知見を明らかにしたことから、学位に値する研究と評価された。</p>	